

花乃井だより

学校
通信

令和5年1月10日(火)

第115号

大阪市立花乃井中学校

令和5年 あけましておめでとうございます!!

新しい年が明け、本日3学期がスタートしました。今年は干支でいうとウサギ年。長い耳で周りの状況をしっかりと把握し、ウサギだけにホップ・ステップ・ジャンプと大きく飛躍する年にしたいと思いますがいかがでしょうか。



ところで皆さん、本年の目標は立てましたか？また、3学期の目標はどうでしょうか？目標といっても、とてもじゃないけど実現できそうにもない大言壯語を並べる必要はありません。小さなこと、身近なこと、細かいこと等々、少し頑張れば達成可能なラインに設定することがポイントです。そしてその目標を達成するまでは決して諦めずに取組みをやり続けること。やり抜く(きる)ことが大切です。また、クラスの目標等も、しっかり協力すれば実現可能のこと。皆で支え合ってやりきることができるものを掲げてください。自分一人の力は小さくても、皆の一人ひとりの小さな力が積み重なってやがて大きな力となっていきます。そして、皆と励まし合ってけっして諦めないことです。

そのことについて、2つのエピソードを今日は皆さんに紹介します。1つは、南米に伝わる「ハチドリのひとしづく」という物語です。

ある日、山で大変に大きな山火事が起きました。山に住む生き物たちが慌てて我先にと逃げ惑う中、1羽のハチドリが火を消そうとして、くちばしに水を含んでは、一滴ずつ落とすことを繰り返しました。「そんなことをして何になる」との周りの声に、ハチドリはこう答えました。「私は、今私にできることをしているだけ」このハチドリが立ち向かったのは、目の前の“炎”だけではなく「1人では消せるわけがない」という周りの“無力感”に対してもだったのです。物語は、いかに状況が困難であろうとも、今の自分にできることを一生懸命にすること。そして、それを諦めないこと（いわば草の根の行動）がいかに大切なことかを教えてくれます。

もう1つは、ある大学の学生たちが昨年に学生平和意識調査を実施したときのお話。「日常生活で核兵器について考えるか？」との問いに63.2%が「考える」と回答する等、若い世代の間でも核兵器への関心が高いことが浮かび上りました。しかし、実はメンバーの中には当初「こんなことをして何になる。私たちの力では核兵器をなくすことなんてできるはずがない。こんな調査に意味はない」と感じていた人もいたそうです。ところが、友人との語らいを重ねる中で、対話が核兵器廃絶への連帯を築くことに気づいたとのこと。「世界の平和といつても、結局は自分たちの足元の行動から始まることが分かりました。これからもあきらめずに挑戦を続けます。」と語ったということです。

この3学期、3年生のさんはいよいよ卒業後の進路を決定する選考試験等に挑戦していきます。1・2年生のさんは来年度へ向けての準備の学期となります。これから寒さは増々厳しくなり、感染症の拡大にも気が抜けない日々が続きます。本日も体調不良で欠席・遅刻のメンバーが多くいます。健康にはくれぐれも留意して、悔いのない3学期を送りましょう。